|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |

【目的】少子高齢化の流れを受けて、今後の看護を担う若者も減少し、必然的に在宅看護を担う人材の高齢化も進むものと思われる。そこで本研究では、地域医療の中核病院が担う役割をあきらかにするために、…

【方法】院内の専門・基礎研修を受けた○年目の看護師128名を対象に、匿名の自記式質問紙調査票により、今後、病院を離れて訪問看護等への勤務を希望しているか、受講した研修がそれらに有益なものであったか、満足度を調査した。本研究の実施にあたり、所属先の研究倫理委員会の承認を受けて実施した。

【結果】120名の看護師より回答があった（回収率93.7%）。回答者の33％が5年以内に、15％が10年以内に訪問看護等への移動を考えていた。研修の満足度については、大変満足が52％、満足が36%と肯定的に取られるものが大半であった。自由回答からは、介護保険の各サービスでどのような利用者が多いのかを知りたい。訪問時の安全対策を具体的に知りたいなどが数件ずつ見られた。

【考察】研修内容は、在宅看護を担う人材の育成という観点からは適切なものであると考えられるが、訪問看護等の介護事業所への転職を希望する割合も高く、病院の看護体制の維持が困難となることも考えられ、本院のみならず地域の病院全体で人材を養成できるような方向性も考慮すべきと考えられた。

（この抄録の記載内容は架空のものです）

1) 船橋港湾病院、2) 千葉看護大学校看護学部看護学科

船橋貝太郎1)　市川梨子2)

**生産年齢人口減少時代の在宅看護人材の確保と養成**

**地域医療の中核病院での研修結果**